

令和6年度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト (清和学園高等学校)

目 指 す 学 校 像	通信制・単位制の特性を最大限に活用し、「行うことによって学ぶ」の建学精神を礎に生徒の具体的な目標に合わせて、一人ひとりの夢や希望を叶える学校を目指す。
-------------	---

重 点 目 標	1、誠実な心を育てると共に挨拶の励行と基本的な生活習慣の確立 2、創造性を豊かにすると共に基礎学力の更なる向上と無限の可能性を引き出す 3、勇気をもって行動し、国家試験100%を目指す
---------	--

達 成 度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。		
出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	2名 3名 2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 2 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	- 通信制高校という特性から様々な学習歴を持った生徒が入学してくる。本年度も、特に挨拶に重点を置き、教師がまず心を込めた挨拶をする。1年後には、挨拶を気持ちよく交わし合える学校にする。 - 基礎学力が身に付いていない生徒が多く、基本的な生活習慣の改善が常に課題である。 - 不登校生徒や特性のある生徒にきちんと向き合える体制の整備が課題である。	- 基礎学力の向上を目指した工夫や改善がみられたか。 - 教師自ら率先して挨拶や声かけができたか。 - 整理整頓が年間を通してできたか。 - 特性のある生徒にきちんと向き合えたか。	- 週2日間で5時間、基礎学力の向上と題して、教科別スクールを実施。学び直しを毎週実施する。 - 朝の SHR や帰りの会等で教師の積極的な声かけと現場指導を徹底し、ロッカーの整理整頓を各クラスで「見える化」する。 1日一回は特製のある生徒に声掛けをする。	- 学校内での積極的な挨拶ができているか。 - 教科別スクールに積極的に参加を呼びかけているか。参加していない生徒の指導が十分できたか。 - 実習服の整理整頓や教科書の持ち帰りの個別指導ができたか。 - 声掛けと励ましができたか。	- 教科別スクールへの評価を月1回実施し、その結果不登校の生徒の出席率が前年度より良好になりつつある。 - 教師個々の声かけにより、整理整頓や、ロッカー指導は、成果があった。 - 挨拶は個々の生徒が教師や来校者にも明るくできるようになってきた。	B	- 不登校生徒へは個別指導を繰り返してはきたが、登校できない生徒もいるのも課題である。・ - 基礎学力向上の為、週に2時間国・数・英については学習時間を増やしたことにより、基礎学力は定着しつつあるが、帰ってしまう生徒もいることからこの時間を強制力のある時間にすることも課題の一つである。
2	3観点を取り入れたアクティブラーニングの実践に向けて、教材を研究し、深い学びを実現する。生徒は単なる楽な授業を求めているはいない。真に楽しい授業とは、新しい気づき・達成感・充実感があり、創造性・主体性を発揮でき、誠実さと厳しさが伴う。インターネットとコミュニケーションを繋げる技術である ICT を使った教育を推進する。	- 各教科によって単位習得率が異なる中、指導内容の改善や工夫がみられたか。 - 生徒主体のスクーリングができるような教材や実習の工夫があるか。	- 特に英・数といった苦手教科については、副教材の「ラスパ・ラルボ」を中心にスモールステップで個別指導の徹底を図る。 - 実技以外でも、教室でのスクーリングも ICT を活用し、生徒が主体的に取り組める活動を展開。	- 副教材を使用しての個別対応の中で能力別プリント作成を実施することができたか。 - 実習・実験の事前準備や視聴覚教材等の積極的な活用ができているか。 - マイスター・ハイスクール授業との関連づけができたか。	- 個別対応の学習プリントも全教科で作成できるよう取組む。 - 生徒主体のアクティブラーニングの取組を全教科で実施できるようにする。 - 生徒の課題解決能力や発表力が少しずつ身に付いてきている。	B	- 単位習得率も全体として上がっては来ているものの、全体では95パーセント以上を目指し、保護者からの信頼を高めるよう心がける。 - アクティブラーニング研修会への積極的に参加。 - マイスター・ハイスクール事業も2年目で、学習面での進歩がみられた。
3	- 集団活動を体験できる機会を、積極的に実現する。勇気を持って集団活動に一步を踏み出すことで、生徒は大きく成長するきっかけを掴む。 - 全国唯一国家資格の取得できる自動車科・調理科がある。特に自動車科の合格率100%を目指す。	- 毎年3月に実施される自動車整備士の国家試験の合格率を上げることができたか。 - 検定試験において一つでも多くの資格に合格することができたか。	- 体育祭の応援旗の作成やクラス単位での種目に積極的に参加させる - 自動車科においては、1月より国家試験対策を実施。生徒をABCの3段階に区分し個別指導と分かる生徒が先生役になる新しい取り組みの実施。 - 資格演習と教科別スクールの中でも検定試験対策を実施。	- 個に応じた学習計画を推進することができたか。 - 教師自らの自作問題で個別指導ができたか。 - 分かる生徒がわからない生徒に教えあうことができたか。	- 今年度も合格率はまだ発表になっていないが生徒の自己採点では2名合格点に達していない生徒がいる。 - 資格取得では、昨年以上の結果を残すことができた。	B	- 昨年度の合格率の現状を把握して、生徒が自主的に問題作成をできるように指導を心がけて行く。来年度に生かせる指導の取組の実施。 - 教師の自作プリントの申し送りと、個別指導での基礎学力の徹底を図る。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和7年2月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等
- 今年度も野球部は全国大会出場は叶わなかった。ソフトテニス部・卓球部は全国大会に出場でき、素晴らしかった。 - 挨拶については、昨年同様今年度の生徒もよくできていると思う。今後も継続して取り組んで欲しい。 - 特性のある生徒の指導は大変な部分も多いと思うが、継続して諦めず指導して欲しい。
- 単位習得率の向上は学校の信頼も高めることになる。今後も努力して頂きたい。 - 生徒主体のアクティブラーニングの取り組みはどこの学校でも実施されていると思われるが、通信制高校の特色を生かしたものにしてみたい。
- 県内唯一の国家資格の取得できる自動車科ということもあり、合格もみんなが注目していると思う。全員合格が実現できれば素晴らしいと思う。 - 各種資格取得が就職にも有利になると思われるので、できるだけ多くの資格を取得できるよう声掛けをお願いしたい。